

平城宮跡保存運動のはじまり

—石崎勝蔵関係資料から—

明治時代の平城宮跡保存運動については、2011年3月に当研究所より『明治時代平城宮跡保存運動史料集』（以下、『史料集』と略称）を刊行し、棚田嘉十郎・溝辺文四郎関係資料の一部を紹介した。ただし、当初は棚田・溝辺が必ずしも運動の中心に位置したわけではない。このたび運動最初期の、明治34・35年（1901・1902）の資料の存在を知ったので紹介したい。これらは、奈良市で漢方医を営んでいた石崎勝蔵（1845～1920。北村信昭『奈良いまは昔』奈良新聞社、1983年など参照）の関係資料で、現在、曾孫の石崎直司氏が所蔵している。

封筒5点に収まる分量なので、右に全文を翻刻し、図面は写真を掲出した。封筒Aの①～③は、保存運動の嚆矢である、明治34年4月3日の、平城宮大極殿址木標建標式の資料である。①は建標の趣旨につき、やがては「一大社殿ヲ創建」することを謳っている。この時平城宮址顕彰会が組織されており、顕彰会の趣意書は「溝辺文四郎日記」第1冊の冒頭に書写されている。顕彰会の趣意書は棚田の聞書では水木要太郎が作文したというが、①も水木の作だろうか。②は案内状で、水木あてのものが『奈良市史通史4』（奈良市、1995年）に紹介されている。水木・石崎など、学識ある奈良の文化人が当初から関わっていることがわかる。③の図面も、この式典で頒布されたのだろう。顕彰会の活動は数ヶ月で行き詰まり、刷り物の版木は棚田に渡される。棚田は平城宮跡のピラを広く散布するが、それは③を改訂したものである（『史料集』参照）。

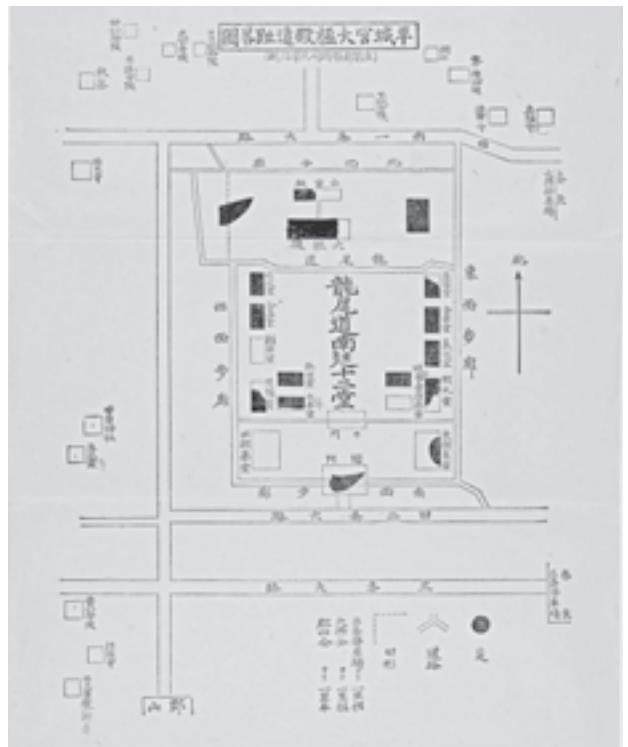


図76 平城宮大極殿遺址略図（資料③）

翌明治35年に平城神宮建設会が発足する。④～⑩はその関係資料である。石崎は4月に同会の名誉会員になり（④）、5月頃に幹事になっている（⑥）。この時に建標している（⑦）のは、朝堂院の標木だろうか。また、⑩では平城神宮の計画が判明する。祭神には、奈良朝七代の天皇・平城天皇のほか、宇佐八幡神・和氣清麻呂なども見える。明治時代の歴史観がうかがえて興味深い。

平城神宮建設会も長続きせず、その後は棚田を中心として運動は展開する。そのため顕彰会・建設会の活動は現在ほとんど知られていない。しかし、建設会は都跡村に事務所を置き、専用の封筒・罫紙を用いて、方朱印を捺した公的な文書を発行していた（釈文凡例参照）。それは村の有力者が中心となり奈良の文化人が協力した公的な活動だった。その場で平城神宮建設計画が合意された。この時の合意を前提として、その後、棚田の献身的な活動が展開していく。（吉川 聡）

○撰社 一座
祭神 橋諸兄公
大伴家持卿
應

一、神宮建設ノ期ハ明治三十二年八日平城宮創立ヨリ千二百年ニ相当スルヲ以テ、今ヨリ七年間ヲ期シ竣成スルコトヲ期ス、

一、平城神宮建設会設立ノ議ヲ奈良県ニ出願シ認可ヲ受クルコト、

一、水野要太郎氏草案之趣意書ヲ取捨シ、賛成ヲ求ムルコト、

一、賛成ヲ求ムルハ貴衆両院議員・県会議員・公園改良諮詢会員・多額納税者、其他県下有力者トス、

一、賛成調印ヲ求ムル会員名簿ヲ調製スルコト、（鞆表紙 奉書用紙）

一、建設会発企ニ関スル会合ハ、会員各自弁当持參トシ且ツ禁酒トス、

一、建設会発企者他出ノ際ハ充分節約ヲ守ラシメ、車馬賃ト宿泊料ノ実費ヲ給ス、

一、神宮建設設計書ハ帝国大学教授関野貞氏ニ囑托スルコト、

一、記念トシテ平城史ヲ編纂スルコト、

参考ノ為メ齋藤氏編纂ニ係ル大和史ヲ県庁ヨリ借入ル、コト、

一、当日会合者

- 岡島彦三
- 松田利三郎
- 大沢菅二
- 溝口吉太郎
- 豊田善三郎
- 沢口秀松
- 沢村栄太郎
- 川村善五郎
- 棚田嘉重郎
- 岡田庄松
- 松田茂三郎
- 溝部文四郎
- 宇佐美樹三郎
- 石崎勝蔵
- 石崎迅男
- 吉田雄熊

凡例

- 一、平出は二文字分の欠字に改めた。
- 一、新たに読点を付けた。
- 一、抹消文字は文字の左傍に「こ」を付けた。
- 一、編者の注記には*を付け、または*(*)のかたちで、傍書の場合は()、()で示した。

一、封筒の文字は「」で括り、改行は「」で示した。書は印刷にて「平城神宮建設会事務所／奈良県生駒郡都跡村」と記す。

一、方朱印1の印面は「平城神宮建設／会之印」、方朱印2は「平城神宮建設／会事務／所之印」。

一、罫紙1は朱刷り、柱に「平城神宮建設会事務所用紙」、左下欄外に「印刷 奈良活版所」とあり。

一、①②は左下に「(印行 奈良活版所)」とあり。

封筒A *朱色、①③を納める

(*表墨書)「石崎勝蔵殿」

(*裏墨書)「平城宮大極殿旧趾建標／有志総代」

①平城宮趾建標之趣旨書 *刷り物

平城宮趾建標之趣旨

謹テ惟ルニ、我 皇室ルノ神聖ナル^(朱色)、臣民トシテ誰カ尊敬セザランヤ、抑中古以来大権ノ武門ニ移リシヨリ、畏クモ 皇威振ハズ且畏レ多クモ 皇室ノ神聖ヲ毀フモノナキニアラズ、蓋シ宮趾ノ如キ山陵ノ如キ、或ハ荒廃ニ帰シ或ハ湮滅ニ瀕セントス、

然リ而シテ 允文允武ナル 今上陛下御位ヲ継セ給ヒシヨリ、大権ヲ回復シ文化日ニ開ケ内ニハ泰平ヲ謳歌シ外ニハ国威ヲ輝カシ、夙トニ 至仁至孝ナル大御心ヲ 歴代山陵ノ事ニ注ガセ給ヒ、其經營ノ周到森嚴ナル、日モ尚ホ足り給ハザルガ如シ、嗚呼 陛下鴻徳ノ旺ナル誰カ感戴セザランヤ、吾ガ奈良県生駒郡都跡村大字佐紀ノ地タルヤ、奈良朝七代宮居シ給ヒシ平城宮趾ニシテ、今ヲ去ルコト殆ンド一千二百ノ星霜ヲ経タリ、居民素ヨリ 尊王ノ志厚ク、是カ廢滅ヲ歎キ、時來ラバ大ニ保存ノ道ヲ立ントスルヤ久矣、今ヤ其機熟シ同志相謀リ先ヅ 大極殿ノ遺趾ヘ一大標木ヲ建設シ生等微志ノアル所ヲ発表シ、尚ホ漸次

其規模ヲ広メ、終ニハ一大社殿ヲ創建シ以テ奈良朝七代ノ 聖靈ヲ奉祀シ、 皇室規模ノ尊嚴ナルト 聖代ノ隆盛ヲ千世万代ニ顕彰セントト是レ生等ガ企図スル所ノ願望ナリ、希クハ大方ノ諸彦幸ニ賛助シ給ハラントコトヲ、聊建標趣旨ノ一斑ヲ謹述スルコト爾リ、

明治三十四年三月

建標有志者

②建標式挙行案内状 *刷り物

謹啓、時下春暄之好時候益御健勝奉賀候、陳ハ這度平城宮大極殿之旧趾ヘ建標仕、一ハ以テ旧蹟探訪之士ノ便ニ供シ、將又無智田夫ノ鋤鋤ノ害ヲ防ガン為メ、同志相謀リ即チ来ル四月三日ノ佳辰ヲトシ、午前十一時聊建標ノ式挙行仕候間、万障繰合セ御臨場仰度、右御案内迄如斯御座候、 敬具

追テ式場ノ都合モ有之候ニ付、乍恐縮右諾否本月三十二日マデ生駒郡都跡村役場内岡島彦三宛ニテ御通報被成下度奉懇願候、

明治三十四年 三月廿六日

建標有志總代 岡島彦三 戸尾善右衛門 大沢菅二 松田利三郎 飯田岩次郎

③平城宮大極殿遺趾略図 *刷り物、図76参照

封筒B *切手・消印あり、④⑤を納める

(*表墨書)「奈良市宇菩提／石崎勝蔵殿／親展」

④平城神宮建設会名誉会員推薦状 *墨書

平城神宮建設会名誉会員ニ推薦ス、

明治三十五年四月十八日

平城神宮建設会長堀之内高潔(*方朱印1)

石崎勝蔵殿

⑤推薦書査収依頼状 *藍色書

本会推薦書別紙御送付仕候間、御査収被成下度候也、

明治三十五年五月二十七日

平城神宮建設会事務所(*方朱印2)

石崎勝蔵殿

封筒C *切手・消印あり、⑥を納める

(*表墨書)「奈良市宇菩提／石崎勝蔵殿／親展」

⑥幹事会開催通牒 *墨書、罫紙1

啓上陳ハ

本会幹事ニ御承諾被下誠ニ本会ニアリテハ大ニ慶賀之到ニ奉存候、就テハ来ル二十一日午後七時、貴下宅ニ於テ会長始メ幹事一同參集ノ義ハ、先日棚田君ヨリ承知仕、当日ハ会長(郡長)及ヒ先ニ幹事等モ招參可仕候間、兼テ御了知置被下度、不取敢御通牒迄、 敬具

平城神宮建設会事務所(*岡島円朱印)

明治三拾五年五月十日

平城神宮建設会幹事 石崎勝蔵殿

封筒D *切手・消印あり、⑦⑧を納める

(*表墨書)「奈良市宇菩提／石崎勝蔵殿／親展」

⑦標木依頼状 *墨書、罫紙1

本日建標ノ節ハ御出張被下奉謝候、陳ハ其際御談有之候標木左記ノ員数入用ニ付、甚タ申兼候得共御寄附被下度、尤モ用材出来上リ候ハ、御志報次第当方ヨリ人夫ヲ以テ受取方差遣候間、兼而御了知置被下度、先ハ御依頼迄申進候也、

明治三十五年五月二十一日

平城神宮建設事務所(*方朱印2)

幹事 石崎勝蔵殿

左記

一、松若シクハ杉 長八尺 六寸角 四本

追而、前刻特使ヲ以テ申進候旨意書及願書ハ、御一見ノ上吉田君ヘ御交付被下、早急本書編纂ニ着手致呉ラレ候様御伝言被下度候、

⑧新聞記者吉田書翰 *墨書、青摺原稿用紙

拝啓、昨日は欠礼仕候、扱本日当市各新聞へ昨日之記事送稿可致管ニ御座候処、正午迄ニは帰社可仕管ニテ他出致候マ、漸ク四時ニ帰社仕候次第ニテ、他社へ送付之時刻無之、唯本社大和新聞ノミ掲載仕候テハ面白カラズト存ジ、総テ明日ニ延バシ申候間、不悪御宥被成下度、御違約之罪免ル所無之次第、何レ拝眉陳謝可仕、先は不取敢右御断迄如此ニ御座候、早々不一

五月廿二日 吉田生

石崎先生 玉机下

封筒E *⑨⑩を納める

(*表墨書)「石崎勝蔵殿」

⑨溝口書状

拜啓、陳ハ昨日ハ參堂仕御面に申上候、其節御晰シノ趣意書及送付候間、宜敷御依頼申上候也、

五月廿二日 溝口 石崎先生

⑩平城神宮建設会幹事会決議記録 *青罫紙五紙

五月式拾壹日

平城神宮建設会幹事会ヲ奈良市石崎勝蔵氏宅ニ開会シ、左之件々決議ス、

平城神宮ノ祭神ハ

正殿 七朝天皇

祭神 宇佐大皇

別宮 平城天皇

別宮 和氣清麿公

相殿 祭神 (伝虫女)

△末殿 祭神 (真人豊永)

撰社 一座

撰社 藤原永手公

祭神 吉備真備公

藤原百川郷

藤原蔵下磨

坂上莉田磨

撰社 二座

祭神 舍人親王 一座

祭神 太安磨 一座

祭神 禰田阿礼 一座